

復活節第5主日 (ヨハネ 15:1-8)

見えるしるしを通してぶどうの木イエスに繋がる



新年度から主任司祭と助任司祭と助祭の組み合わせでスタートしました。ミサの割り当てには、司祭が三人の時よりも慎重になります。福江教会、井持浦教会、浜脇教会の三小教区に、二人の司祭が偏らずに担当できているか。

助任司祭の負担が重くなってないか。助祭は単調な奉仕ばかりになっていないかなど、考えることがいっぱいあって日々綱渡りです。主任司祭は管理職なので多少のストレスは覚悟の上ですが、助任司祭や助祭にはストレスを抱えさせたくないのが本音です。

そんな中、平日に久賀修道院のミサに行ってきました。久賀修道院のミサは「修道院担当」が回ってきた司祭が当番になります。13時35分福江港出発の船に乗って、14時前に上陸して、16時にミサをして17時半に奥浦港に到着です。福江港から出発して奥浦港に戻ります。

14時に久賀島に上陸ですから、修道院の16時ミサまで2時間あります。2時間は結構な時間ですので、この時間で日曜日の説教でも考えてみようと思い、少し材料を持ち込みました。最高に静かな環境の中で日曜日の福音朗読をしっかりと読み味わえるな、とっていました。

いざ読み込もうと思ったとき、予想外のことが起こりました。司祭館周辺に人影が見えるのです。磨りガラス越しなので誰かは分かりませんでした。たしかに人がいます。そうこうしているうちに今度はチェーンソーの音が聞こえ始めました（音真似）。どうやら、教会と司祭館周りの木を切って、日曜日のミサの時に気持ちよく参加できるよう作業に来てくれていたのでしょう。

作業している信徒の方はご苦労さまなのですが、可哀想に主任司祭は当てにしていた静かな環境は諦めなければなりません。ただ、文字にはまとまりませんでした。周辺で伐採作業をしている音を聞きながら、与えられた朗読箇所のうち、響いてくる箇所がありました。

「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。」(15・4) 中田神父は自分への呼びかけとして受けとめたのですが、浜脇で日曜日に信徒の皆さんが気持ちよくミサに参加できるよう平日に作業に来てくれた。その信徒の方はご自身の働きを通して教会と教会におられるイエスに、繋がってくれたのです。一人の人の働きが、多くの人のミサ参加を快適なものにしてくれました。イエスに繋がって、多くの実を結んだのです。

それに比べて、司祭館にじっとして人影に気付きながら様子を見に行くこともせず、声もかけなかった主任司祭は、作業に来てくれた信徒を通してイエスに繋がる良い機会だったのに、機会を逃してしまいました。日曜日の説教を準備しようとした静かな環境を当てにしました。むしろ私は、作業に来てくれた信徒にすぐに会いに行ったら声をかけていれば、もっと早くに説教もまとまったのだと思います。後になって気付いたこ

とでした。

「わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。」

イエスの呼びかけは、十分理解できる内容です。しかし、「実を結ぶ枝」はいきなりぶどうの幹に繋がっているわけではありません。ぶどうの幹にすでに繋がっている枝があって、その枝を通して幹に繋がっています。作業に来てくれた信徒は、教会敷地の景観を通して、ぶどうの幹であるイエスに繋がった。中田神父も、作業に来ていた信徒を通して、ぶどうの幹であるイエスに繋がることのできたのです。

私たちは、ぶどうの木であるイエスに繋がることで豊かに実を結びます。実を結びますが、イエスに繋がるせつかくのチャンスを見落とす危険もあります。あなたのすぐそばにいる人が、ぶどうの木であるイエスに繋がる確かな枝かもしれません。

復活節第 6 主日(ヨハネ 15:9-17)